

健康診断を受けられた方へ



健康診断の結果を把握することは、健康な生活を送るために大切なことです。自分の結果を知り、今後の健康維持の参考にしてください。

健康診断の結果の見方

区 分	検査項目	解 説
血液一般	白血球数	体内の異物や細菌を殺し、身体を守る働きをします。体内の炎症（感染）があると増加します。また、減少している場合は感染しやすくなります。
	白血球分類	白血球には5つの分画（種類）があります。この分画の増減により、各種病態（感染、炎症、免疫疾患、アレルギー体質など）を推測します。
	赤血球数 ヘモグロビン量 ヘマトクリット	ヘモグロ빈は酸素や二酸化炭素を運ぶ役割をしています。ヘモグロビンが低値であれば貧血の可能性があります。
	MCV・MCH 等	赤血球1個の大きさやヘモグロビン濃度から、貧血のタイプを分類します。
	血小板数	出血をした際に止血に関わる成分です。数値が減少すると出血が止まりにくく、青あざがでやすくなります。
糖 代 謝	血 糖	血液中のブドウ糖濃度のことで、高値は糖尿病が疑われます。
	HbA1c	1～2ヵ月間の血糖平均値をあらわしています。
	尿 糖	尿中の糖の有無をあらわします。血糖値が高くなると尿中に糖が出てきます。
代 謝	尿 酸	食べ物に含まれるプリン体の最終代謝産物です。摂り過ぎると血液中の尿酸値が高くなり、痛風、尿路結石、腎障害の原因になります。
肝 機 能	総たんぱく アルブミン	血液中の蛋白濃度を測定し、肝機能、腎機能、栄養状態などをあらわします。アルブミンは蛋白の一種で、蛋白全体の60～70%を占めています。
	AST (GOT) ALT (GPT) γ-GTP	肝臓に多く含まれる酵素で、肝臓に障害が起こると血液中に流れ出し数値が高くなります。特に、γ-GTPはアルコール性肝障害で数値が高くなります。
	総ビリルビン	黄疸の症状を示す色素で、肝臓や胆嚢、胆管に異常があると高くなります。
	ALP	主に肝臓、骨、小腸などに異常や病気があると上昇します。薬や食事の内容によって変動します。

膵機能	アミラーゼ	主に膵臓と唾液腺から分泌される消化酵素で、これらの臓器に異常があると数値が高くなります。
肝炎	HBs 抗原 HBs 抗体 HCV 抗体	B型肝炎ウイルス感染の有無をあらわします。 C型肝炎ウイルス感染の有無をあらわします。
脂質	総コレステロール	ホルモンや細胞膜の大事な材料ですが、多すぎると動脈硬化を起こす原因となります。
	HDL-C	善玉コレステロールと呼ばれ、悪玉コレステロールを回収して肝臓に届け、動脈硬化の予防に働きます。
	nonHDL-C	動脈硬化のリスクを総合的に管理できる指標です。
	LDL-C	悪玉コレステロールと呼ばれ、血管壁に蓄積して動脈硬化を起こし、脳梗塞や心臓病の原因となります。
	中性脂肪	糖質の摂り過ぎや運動不足で、使い切れなかったエネルギーが中性脂肪として蓄えられ、肥満や脂肪肝の原因となり、動脈硬化を進めることにつながります。
腫瘍マーカー	CEA	大腸、胃、膵臓、肝臓、肺などのがんが疑われます。
	CA19-9	膵臓、胆道、肝臓、胃、大腸などのがんが疑われます。
	PSA	前立腺がんの早期発見に有効です。 確定診断には生検による病理検査が必要です。
	CA125	卵巣、子宮、膵臓、肝臓、肺などのがんが疑われます。
便	便潜血	消化管からの出血の有無をあらわします。
腎機能	尿素窒素 (BUN) クレアチニン	尿素窒素やクレアチニン値は腎臓から排出される老廃物です。腎臓の働きが低下すると尿中に排出されずに血中の値が高くなり、腎機能障害が疑われます。
	eGFR	血清クレアチニン値、年齢、性別から計算し、腎機能の状態を推測する数値です。
	尿蛋白	尿中の蛋白の有無をあらわします。 腎炎、尿路の腫瘍、尿路感染症、糖尿病性腎症などで陽性となります。
	尿潜血	尿中に血液が含まれると、腎臓、尿管、膀胱、尿道などの尿の通り道に何らかの異常がある可能性があります。
	尿沈渣	尿中に正常であれば存在しない成分や細胞が混入していないか顕微鏡で調べます。腎臓や尿路の異常がわかります。

